

学校だより



# ひがし

令和元年11月22日発行  
第21号  
伊豆市立修善寺東小学校  
TEL0558-72-0420

◆学校教育目標「よく学ぶたくましく心やさしい東っ子」◆重点目標「一人で挑戦！みんなで挑戦！」

## 本が好きな子に…本が身近にある環境づくりを

11月は読書月間です。今年は、「1分間で本の魅力を紹介しよう」と呼びかけ、ミニ・ビブリオバトルに挑戦しています。子どもたちは自分のおすすめの本を手に校長室に訪れ、一人ずつ本の紹介をします。縦割りグループごとに、低学年と高学年に分かれて8～9人ずつの実施としました。

子どもたちが紹介する本は千差万別。絵本、昔話、名作、歴史、怪談、SF、ファンタジー、事典、図鑑、ノンフィクションなど、ジャンルも様々で、この日のためにわざわざお気に入りの本を家から持ってきてくれた子もいます。今回は、1年から6年まで東っ子全員が1分間の紹介に挑戦しています。タイマーのピピピという合図があるまで自分の言葉で話し続けるのは、低学年にとってはハードルが高いのですが、高学年がよい手本となってどの子もなんとかクリアしようと頑張っています。途中で言葉が見つからず黙ってしまうこともありますが、聞いている子が静かに見守り応援する姿が見られるなど東っ子の優しさが光ります。たった一冊の本が、温かく穏やかな空気を運んでくれるのです。タイマーの残りの秒数を見ながら言葉を選んで調整し、1分ぴったりで終わる子も多いです。あらすじや登場人物を紹介したり、お気に入りのページを開いて解説したりする子もいます。高学年は、冒頭の部分を問いかけの形にしたり、結末を隠し読んでみたくなるような構成を考へたりするなど、聞き手を意識した工夫も見られます。全員が紹介した後、「読んでみたいと思った本」を一人一票投票し、



「チャンプ本」を決めます。思っていた以上に票が分かれることが多く、それぞれが自分なりの観点をもって選んでいるのが分かります。普段、自分では手にしないような本も、目の前で友達に紹介されると読んでみたくなるものです。小さな取組ですが、読書の幅を広げるきっかけになればと考えています。

そして、読書月間中は、朝の活動の時間に「読書の時間」を位置づけ、全校児童が一斉に本と向き合っています。また、ご協力いただいているPTAの皆様による月曜日の読み聞かせに加えて、図書委員や先生方による読み聞かせも行っています。いろいろなジャンルの本と出会う機会をたくさん設けることで、自分の心にぴったりくる1冊に巡り会い、本が好き

になってくれると嬉しいです。読書を通して新しい言葉や考えに出会ったり、世界が広がったりします。感性が生まれ、心が豊かになります。じっくりと本と向き合うことで、物事に丁寧に取り組んだり、落ち着いて自分の心を見つめたりする余裕も生まれます。読書は、東小の教育活動を支える土台となっているのです。学校でも家でも手の届くところにいつも本があること、友達や先生、家族が本を開いている姿が当たり前にあることなど、本に親しむ環境づくりをこれからも大切にしていきたいと思います。期間中は、本を一人3冊まで借りることができます。ご家庭でも、子どもと一緒に週末読書に取り組んだり、読んでいる本のことを話題にしたりしていただけるとありがたいです。

## 第5回リレー会…応援ありがとうございました！

11月21日（木）に、参観会の日に行う予定だった第5回リレー会を行いました。延期したにもかかわらず、大勢の方が応援に来てくださり、子どもたちは張り切って走り切ることができました。今回優勝したのは1グループ。以下3、4、5、6、2グループの順となりました。今回は、3、5、6、2の4つのチームが記録を大きく更新し、ボーナスポイントを獲得しています。一人一人の走りに力強さが増し、チーム間の差が小さくなってきたように感じます。5回を終えた現時点の総合順位は下の表のとおりです。優勝の行方はまだ分かりません。次回12月13日は、今年度最後のリレー会となります。どんなフィナーレを迎えるのか楽しみです。どうぞご期待ください。

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位
チーム	1グループ	3グループ	5グループ	4グループ	6グループ	2グループ
記録	3分44秒49	3分46秒99	3分52秒52	3分50秒16	3分53秒04	3分53秒55
得点	40点	35点	25点	22点	21点	17点



## 芸術の秋です…修善寺地区園児・児童・生徒作品展

11月9日（土）・10日（日）に、生きいきプラザで作品展が開催され、修善寺地区のこども園の園児や小・中・高校生の絵画、工作、習字、家庭科などの作品が展示されました。子どもたちの表現力や工夫が光る力作揃いで、見応えがありました。普段は見る機会のない他校の作品を鑑賞することで、来年度の作品づくりへの意欲も高まったのではないかと思います。

